

## 自然を語る会 『沈黙の春』第2章 負担は耐えねばならぬ

\*日時：2022年 7月 16日（土）10:00～12:00

\*場所：ZOOM+飯田橋ボランティアセンター

\*参加者：18名

\*資料作成：小川真理子さん

この章は、

この地上に生命が誕生して以来、生命と環境が互いに力を及ぼしあって生命の歴史を織りなしてきた。ところが20世紀というわずかな間に人間が恐るべき力を手に入れて自然を変えてきているということから始まる。いままでにない力～質の違う暴力。どんな暴力的な力が自然に働いているか、具体的な事例を事前に各自が考え（宿題！）、今日はそれを出し合いながら参加者で考えていった。冒頭、同章の数節を上遠さん・北沢さんが朗読をされ、その後互いの言葉に耳を傾け、意見交換した。原子力、DDT、フロンガス、プラスチック、遺伝子、エネルギーについての開発の歴史の紹介を小川さんが資料にまとめてくださった。

### 【急激な人口増加】

- \*ここ半世紀の急激な人口増加による自然破壊。（1960年代30億人⇒現在80億人近い）
- \*地球には自浄作用がある、人が増えすぎたら疫病などで減り、長い目でみれば自然にバランスのとれた数になる。⇐いや、生態系のバランスが崩れたら、長続きはしない、など意見色々。

### 【科学技術の開発：メリットとデメリット】

- \*IT技術について専門家や企業だけでなく、IT技術の発展に伴う生活のあり方を市民が考え直す時代。
- \*アンデシュ・ハンセン著『スマホ脳』からの紹介：「人間はスマホの進化についていけない」、「フェイスブックは人生の満足度を下げる」（いいね！と言われておしまい。真の達成感を得られない）、「共感力・自制心の低下」（自己満足、他人や周りに対する思いやりの欠如）など  
⇒感性が小さくなっていき、心の可動域が縮小しアタマだけが発達していく。  
「感じる」ことは経験しないとダメ。感性が小さくなると、自然に興味を持てず環境活動にも積極的にならない。自然を大切に、と言っても響かない。便利な世の中はリアルで触れ合う時間を奪い、手間暇かける貴重な体験を失い、結果がすべてになる。一つの暴力では。
- \*技術開発により示される「便利さ」について、メリット・デメリットを明確に表示し、人はそれを元に冷静に選び取り、見て見ぬふりをしたくなる事にも勇気を出して、情報を共有できる社会をつくることが重要。

### 【身近に感じる事例】

- \*道路(建設・舗装)工事、河川や海岸の護岸や埋め立てによる自然破壊（消失）。
- \*清潔さを誇張した薬剤のCMの多さ。薬剤を使用して屋内清掃(消毒)を常にしないと人体に害があるようなCMについて、一定年齢以上の世代はそのような必要はないとわかるが、若い世代は感覚がひとつの方向に動かされているのがこわい。

### 【その他】

- \*カーソンに「沈黙の春」を書かせたきっかけは何か。ビキニ環礁の水爆実験など放射能による自然界への影響に対する危機感が根底にある。「沈黙の春」にはその思いがこだましている。
- \*熱帯雨林の開発。ボルネオのパーム椰子(食品・化粧品等の材料)栽培のためのプランテーションなど。大量生産・大量消費、物流のグローバル化に起因する森林破壊、人権侵害、児童労働問題。
- \*人は呼吸する速さに合わせて生活することが大事（笠信太郎の言葉）。
- \*これからの若い世代に
  - ・情報を取捨選択する力をどう身につけさせるか、知識や大人の働きかけが大事。
  - ・また、想像して考える力を身に付けさせることが大切では。  
ゴキブリが簡単に死んでしまう薬剤を人がいる場所で使ったら人体への影響はないのか？  
原発を使ったら、あと(放射性廃棄物等)はどうなるのか？

♪ 最後は今週、誕生日を迎えられる上遠恵子さんに、Yさんのギター伴奏で

♪ハッピーバースデー恵子ちゃん♪を皆で歌ってプレゼント、なごやかに終了した ♪

（勝山 記）